

政策評価結果

参考資料 5

政策分野:環境

構成する施策	自然環境とくらしを気遣う環境の保全 低炭素型のくらしやまちづくりの実現 ごみを出さない循環型社会の構築
--------	---

1 客観指標評価

	客観指標	23年度	24年度	25年度	26年度
1	温室効果ガス排出量削減率(1990年度比)(%)	d	b	e	e
2	エネルギー消費量削減率(2010年度比)(%)	-	-	-	b
3	本市が受け入れるごみ量(トン)	a	b	b	b
客観指標総合評価		b	b	d	c

※ a～eの5段階評価

2 市民生活実感評価

	設問	23年度	24年度	25年度	26年度
1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	b	c	c	b
2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	b	b	b	b
3	省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。	b	b	b	b
4	太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。	c	c	c	c
5	京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。	c	c	c	c
6	マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	a	a	a	a
7	ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	a	a	a	a
市民生活実感調査総合評価		b	b	b	b

※ a～eの5段階評価

3 総合評価

	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	B	B	C	B

※ A～Eの5段階評価

政策の目的が
A:十分に達成されている
B:かなり達成されている
C:そこそこ達成されている
D:あまり達成されていない
E:達成されていない